

令和4年度（2022年度）自己評価結果公表シート

学校法人聖リゴリオ学園

すわせいぼ幼稚園

I. 本園の教育目標

① 宗教教育

キリスト教的人間観（正義・愛・平和）に基づき優しい心、思いやりの心ある子どもに育てる。

② モンテッソーリ教育

モンテッソーリ教育を通し「自由」と「責任」の中で一人ひとりの子どもが自ら考え、自ら選び、自ら成し遂げていく力を付けられるよう援助する。

③ 集団生活

集団生活の中でお互いを認め合い、助け合う社会性を育てる。

④ 心、からだ

豊かな情操と創造力、行動力をもった逞しい心とからだを育てる。

II. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

1. 重点的に取り組むことが必要な目標

ひ 人を大切に
か 感謝し
り 理解し合い
の のびのび元気よく
こ 心の強い子

2022年度年間目標

「相手の目を見てあいさつしよう！」

「神さまからいただいた心と身体をたくさん使おう！」

2. 目標達成のための取組み計画

次の具体的取組み内容について教職員の共通理解をはかり、日々の教育活動の中で適切な指導を行うとともに、保護者への発信とニーズの確認を行い、常に目標達成を目指し取り組む。

- ・きちんと目を見て挨拶や活動ができるように環境を整える。
- ・友だちと関わり、意志疎通や助け合いができる機会を日々の活動に多く持つ。
- ・自分で考え、ルールを守り適切に行動できるよう習慣付ける。
- ・神さまの愛を知り感謝の気持ちを分かち合う。

III. 評価項目の達成及び取組状況

評価の基準 A：十分達成できた

B：おおむね達成している

C：あまり達成できなかった

D：ほとんど達成できなかった

評価項目		取組状況	自己評価	関係者評価
幼稚園管理運営	幼稚園の教育目標と重点目標の周知	・幼稚園の教育目標を具体的な言葉で表し、園が目指す幼児の姿を明確にして保護者に周知している。 ・全職員で共通理解を図りながら、クラス、学年、園全体の教育活動の充実を図っている。	A	A
	危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルの中で、各職員の役割を明確にし周知徹底している。 ・避難訓練を計画的に実施し、緊急事態への備えを万全にしている。 ・園内での事故をなくすための工夫と努力が十分になされている。	A	A
	家庭、地域、関係機関への情報発信	・園から適切な情報を発信し、家庭や地域社会への幼稚園教育に対する理解を深める取り組みをしている。 ・参観や行事への参加は、安全に配慮し実施している。 ・関係機関との連携が十分なされるよう努力している。	A	A

評価項目		取組状況	自己評価	関係者評価
教育活動	教育目標に基づいた教育計画の編成と実施のための教職員の共通理解	・宗教教育の方針に沿い、教職員間の共通理解のもとに指導計画が立てられている。 ・モンテッソーリ教育の分野・課程に沿い、教職員間の共通理解のもとに指導計画が立てられている。 ・クラス・学年の活動の中で、社会性を育むよう指導がなされている。 ・心をこめたあいさつができるよう、教職員が手本となり十分な指導がなされている。 ・子どもの創造力や行動力を豊かに育むための指導を積極的に行っている。	A	A
	発達段階に則した適切な幼児の環境理解	・一人ひとりの子どもを大切に、発達段階に応じた適切な指導、援助を徹底している。 ・自主的、主体的に取り組めるよう、環境に十分配慮を行っている。 ・身近な自然や社会とかかわり、豊かな情操が育めるよう環境に十分配慮している。	A	A
	幼稚園と小学校との円滑な連携	・就学に向け、学校での教育内容や生活について情報を収集し、適切かつ十分な指導を行っている。 ・配慮の必要な子どもについて、必要な情報を小学校と共有し十分な連携が行われている。	A	A
	教員の資質向上、研究、研修の充実	・学園研修・園内研修に積極的に参加することにより、知識、技術、技能の向上が図られている。 ・外部の研修会や研究会に積極的に参加することにより、知識、技術、技能の向上が図られている。 ・キリスト教精神に基づく奉仕と感謝の心で職員が協力して前向きに日々の職務にあたり、子どもの良き手本となっている。	A	B

IV. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

【総合評価】	
A	コロナ禍での保育も3年目となり、適切な安全対策を行い制限がある中でも日常の活動や予定の行事のほとんどを行うことができた点、また感染対策の徹底により園での感染拡大がなかった点が評価された。教育目標に基づく日々の活動の中で「挨拶」については今後も重点的な取り組みが期待されている。保護者と園のコミュニケーションの取り方や地域との連携については今後よりきめ細かな対応が必要であるが、総合的には達成と評価された。

V. 今後取り組むべき課題

・子どもの「あいさつ」の習慣づけについてはまだ十分とは言えない状況であり、引き続き取り組みが必要。 ・保護者の方が不安に感じる衛生面での課題についてエプロン持ち帰りや連絡の徹底を行い適切に対応する。 ・共働き世帯が増加しているため入園準備等について更に保護者負担を軽減出来るよう検討していく。 ・コロナの感染対策は緩和の見通しとなったがご家庭の意見は様々であり慎重に方向を決める必要がある。 ・感染症の発生状況については園からの発信を望む保護者の意見があるため今後もきめ細かに行っていく。 ・駐車場の確保については次年度に改善できる見込みである。
--

VI. 学校関係者の評価

総合的に見ておおむね達成ができており、特に指摘するべき事項はなく妥当であると認められた。 (その他のご意見) ・今後コロナ対応が緩和されてもコロナ禍で見直された点を生かし、これからの時代に求められるより良い教育の方法や内容を引き続き探っていくことが求められている。 ・新しい生活様式と昔の良いところを組み合わせ、更に活気のある園になることを願う。 ・感染対策のために園が設けたルールを守らない保護者が若干見受けられた。保護者自身も子どもや新入の保護者の方の見本となるよう期待したい。

VII. 財務状況

公認会計士監査により、適正であると認められている
